楽楽英語カテゴリー：楽しく英文法
（２０１９年から２０２１年４月）
１：楽しく英文法（１）～（１５）

（１）楽しく英文法：名詞：単数形と複数形

神様：まずは複数形の原則を見ていくぞい。
①単に「s」をつけるだけ：apples, dogs, cars など
②「子音＋y」で終わる単語は「y を i に変えて es」：**countries, babies, parties** など
③「母音＋y」で終わる単語はそのまま「s」をつける：boys, keys, ways など
④「ss」「s」「x」「ch」「sh」で終わる単語は「es」：buses, boxes など
⑤「fe」で終わる単語は「f」を「v」に変えて「s」をつける：**knives, lives, wives** など
⑥「f」で終わる単語は「f」を「v」に変えて「es」をつける：**halves, leaves, thieves, loaves** など
女：けっこういろいろあるんですね。
神様：そうなのじゃ。ルールはあるのじゃが、はっきり言って覚えんでもええじゃろう。
女：ええ？じゃあどうすればいいんですか？
神様：ここに挙げた単語の中でも、太字の単語を覚えておけば応用が効くはずじゃ。
女：なるほど。「countries」「babies」「parties」「knives」「lives」「wives」「halves」「leaves」「thieves」「loaves」ですね。

神様：以上は原則を述べてきたがここでは例外の代表的な単語を教えておこう。
女：やはり例外ってテストに出やすそうですもんね。
神様：そうじゃ、テストを作る人間からしたら例外を出したいものじゃ。
（例外や間違いやすい単語）

potatoes, tomatoes, safes, roofs, beliefs
女：あら、これだけなんですか？
神様：そうじゃ。たったこれだけじゃから安心して覚えておきなさい。

神様：単語の中には複数形のみのカタチで表されるものもあるぞい。
女：また単語だけ教えてくれませんか？
神様：基本的に二つで一つのものを構成するような単語じゃ。
（複数形で表される単語）
pants, jeans, glasses, savings, stairs など。

神様：今までは単に「s」をつけるものを説明してきたがそれ以外のものもあるんじゃ。
女：ほう。
神様：下に紹介しよう。
「man」が「men」
「child」が「children」
「tooth」が「teeth」
「foot」が「feet」
「mouse」が「mice」など

神様：以上今回は「単数形・複数形」についてみてきたが、ルールはあんまり考えんでええんじゃ。基本的には複数形には「s」がついてそこに少し例外的な単語を少し覚えておけばよい。
女：たしかに、ネイティブスピーカーたちもまずは原則を覚えてそれから例外的な単語に出会いながら覚えてきたんですもんね。別にルールを覚えたわけじゃないわけか。
神様：そうじゃ。

（２）楽しく英文法：可算・不可算名詞

１：数えられる名詞

神様：これはただ単純に数えられる名詞には「a」とか「some」とかをつけるだけじゃのう。そして複数形ならば「s」をつけるのじゃ。

例：books, a book, a dog, dogs

女：変化の仕方は「楽しく英文法その１」でやったとおりね。

２：数えられない名詞

神様：次に取り上げるのは数えられない名詞じゃ。水など形のないものなどを指すぞ。「some」とか「the」とか「何もつけない」の３パターンあるぞい。

例：water, meat, cheese, rice, wood, information, money, bread

女：なるほどー。「some」って数えられる名詞でも数えられない名詞でもどちらでも使えるんですね。

神様：間違えそうなミスを教えておこう。

「I went to buy a bread.」⇒「I went to buy some bread.」

「I like a milk.」⇒「I like milk.」

「Many water would be good right now.」⇒「Some water would be good right now.」

女：これはたぶん大丈夫かな。

３：間違いやすい名詞

神様：今まで原則を見てみたわけじゃが、ここからは間違いやすい名詞を取り上げていこう。

女：テストに出やすいやつですね。

①数えられる名詞でも数えられない名詞でもどちらでもいけるもの

「pizza」
I ate some pizza for lunch.
I ordered a pizza for my family’s dinner.
②「clothes」と「clothing」は同じ意味（衣服）だが使い方が異なる
「clothes」：常に複数形で使われる
I bought some clothes today.
「clothing」：数えられない名詞
I bought some clothing today.
女：なるほどー。「clothes」の発音が難しそうで適当に覚えていましたが「クローズス」みたいな感じで発音するんですね。常に複数形、常に複数形、常に複数形、っと。
神様：そうじゃ。
女：それから「clothing」は数えられない名詞、数えられない名詞、数えられない名詞、っと！

4：まとめ

神様：今日は以上じゃ。
女：なるほど。今日はそんなに量はなかったですね。①数えられる名詞、②数えられない名詞、③pizza、④clothes、⑤clothing の五つですね。
神様：ま、そういうことじゃな。

（３）楽しく英文法：所有格の名詞

１：原則

（単数形名詞）

神様：まずは基本は単数形の名詞についてじゃ。単数形の名詞ならば「名詞's」のカタチになるのじゃ。下に例を示してやろうかのう。

例：Dora's book

女：これは簡単ですね。

（複数形名詞）

神様：うむ。それでは次に複数形の名詞にならばどうなるか見てみようかのう。例えば「girls」を所有格にするにはどうするか分かるか？

女：ええと、「girls's book」ですか？

神様：これは「girls' book」になるのじゃ。「名詞 s'」のカタチじゃ。

女：なるほどお。ところで「men」とか「women」とかの複数形はどうなりますか？

神様：これは単に音の関係じゃから「men's」とか「women's」という形になるのじゃ。

女：ふむふむ。

２：間違いやすい例

（複数形ではないが「s」で終わる名詞）

神様：それじゃ、これから間違いやすい例について考えていくぞい。「bass」は所有格にしたらどうなるか分かるかの？

女：ええと、「s」で終わってるけど複数形じゃないから、、、「bass's」ですか？

神様：正解じゃ！

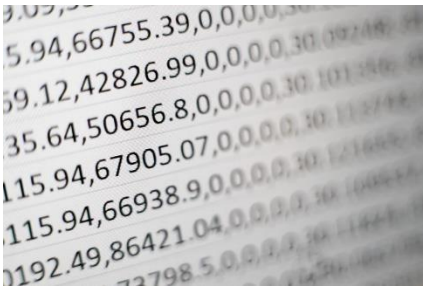
（「s」で終わるが特別な例）

神様：それじゃあ次の例じゃ。「Jesus」の所有格はどうなるかの？
女：うーむ、これはひっかけだよな、、、「Jesus's」ですか？
神様：違うのう。正解は「Jesus'」になるのじゃ。
女：なるほどねー。

3：まとめ

女：今日は所有格の話でしたけどまとめてみますね。
神様：うむ。
女：以下にまとめてみます。
①単数形の名詞：そのまま「's」をつける
②複数形の名詞：そのまま「'」だけをつける
③「men」や「women」などイレギュラーな複数形：「's」をつける
④複数形ではないが「s」で終わる名詞：「's」をつける
⑤「s」で終わる特別な単語、「Jesus」など：「'」だけをつける

（4）楽しく英文法：数字について



1　いろいろな数字の読み方

女：数字を読んでるはずなのに「O（オウ）」と言ったりして気を取られたよ。

神様：そうなのじゃ。「0（ゼロ）」を「オウ」と読むこともあるのじゃ。例えば「７０７」（ななまるなな）を読むときに「セブン・オウ・セブン」と言ったりするのじゃ。

女：なるほど。

神様：他にあるのは「ダブル」と「トリプル」かのう。英語では基本的には同じ言葉や単語の繰り返しを好まない言語なのじゃ。たとえば「１２３３」を「ワン・ツー・スリー・スリー」と読む代わりに「ワン・ツー・ダブルスリー」と言ったりする。トリプルも同じ感じじゃ。

女：ふむふむ。

神様：次に数字を書く時の注意を教えておいてやろう。

女：お願いします。

神様：インフォーマルな文において一つか二つの単語で済む数字の場合はつづりで書き、それ以上や複雑な数字の場合には数字を使うのじゃ。

つづりの例：forty pens, fifty-five books, seven percent とか

数字の例：222 pens, 545 books, 10.67%とか

女：ふむ。

神様：フォーマルな文の場合は数字を使うのが基本じゃ。しかし文の先頭に数字が来るときはつづりで書くか、または文の構造を変えるのじゃ。

例：（×）45% of the student answered the questions.

神様：次に大きな数字を書くときに間違えやすいポイントじゃ。千ごとに「コンマ(,)」をいれるのじゃ。ここで間違えやすいポイントとしては、「コンマ(,)」の代わりに「ピリオド（.）」を入れてしまいがちなのじゃ。

例：530,000 が正しい　（×）530.000 ではない

2　小数・分数

神様：次に小数と分数について話しておこう。

①３分の１：one third

②３分の２：two thirds　＊一より大きい場合は複数形じゃ。

③２と４分の３：two and three-fourths　＊「fourths」の発音は「フォースス」みたいな感じじゃ。あきらめずにゆっくりと何回も練習するとできるようになる。

④２分の１：a half か one half

⑤3.2：「three point two」とか「three and two tenths

⑥0.4：「oh point four」とか「point four」とか「four tenths」

小数点の場合は「ピリオド(.)」を使うので注意。

3　お金

神様：次にお金の読み方をやっておこうかのう。

女：お金！

神様：アメリカではドルとセントを使うじゃろ。基本的には「and」でつなぐのじゃ。

例：32.15：thirty dollars and fifteen cents

神様：しかし会話の流れとかで分かる時はドルとかセンツとかアンドを省略するのじゃ。

例：33.25：thirty three twenty-five

神様：「cent」には名前がついとるのもあるのじゃ。

one cent：「penny」

five cents：「nickel」

ten cents：「dime」

twenty-five cents：「quarter」

女：ペニーって、なんかかわいいですね。

（５）楽しく英文法：冠詞「the」と「a/an」

１.「the」の原則を知っておこう

神様：「the」の原則を教えておいてやろう。
女：ほう。
神様：「the」が使われるのは、話している人と聞いている人が共通で認識できるものじゃ。
女：ふむふむ。
神様：この原則を抑えておくといろいろな例外も理解ができる。例えば、今わしらの目の前に一つの卵があるとしよう。
女：ふむふむ。
神様：わしがこの卵について何か話す時は「the egg」となるのじゃ。「an egg」とはならん。
女：なぜならば、二人の目の前にあり共通で認識しているものだからですね。
神様：そうじゃ。この原則を覚えておきつつ冠詞を学んでいこうかのう。

２.文の最初に出てくる単語には「a/an」で、その後に出てくるその単語には「the」を使う

神様：これは例文を使った方が早いのう。
「**I saw <u>a dog</u> walking on the street. <u>The dog</u> seemed hungry.**」
女：「the dog」はすでに共通の認識になってるわ。
神様：そうじゃ。

３.「TV」に「the」がつく時とつかない時

神様：「TV」に関して言えば、「テレビ番組」を指す場合と「テレビそのものの機械を指している場合で扱いが変わってくる。
女：ふむふむ。
神様：テレビ番組を指すならば「the」はつかずに「**I watch TV.**」となる。ところが「テレビ機械そのもの」を指す場合は「the」がつく。例えば「**Turn on the TV.**」という風になるのじゃ。

4．国連などの省略後には「the」はつかない

神様：例えば「WTO(World Trade Organization)」には「the」つかない。
「**She works for WTO.**」となる。

5．自然界のものには「the」をつける

神様：これも先ほど言った原則から考えると当然のことになるのじゃ。例えば「the sun」と言えばお互いの共通の認識じゃから「the 」がつくのじゃ。
女：こうしてみると、原則だけ覚えておいてその他は原則から考えると導かれてきますね。

6．国の形容詞型に「the」がつくと、、、

神様：「～人」という意味になるのじゃ。例えば 7、「The Japanese」が「日本人になり、the French」となれば「フランス人」という風になる。
女：これは私も知ってました。

（６）楽しく英文法：「the」がつく時とつかない時

「the」がつく場合とつかない場合の具体例

①何かの組織には the をつける

例：He joined the army.

神様：ここで注意するのが組織の名前が頭文字の大文字で構成されておるときじゃ。例えば「WTO」じゃ。「World Trade Organization」の略なのじゃが、「WTO」になると「the」はつかないのじゃ。

例：The World Trade Organization was established in 1995.

例：WTO was established in 1995.

②「川」や「海」には the をつけるが「湖」には the をつけない

例：the Mississippi, Lake Towa**da**

神様：the がつかない固有名詞というのはそれ唯一のものなのじゃ。the をいちいちつけなくてもみんな理解できるからこそ the をつける必要がないのじゃ。

女：なるほど。確かに「川」と「海」は水で他とつながってるけど、「湖」は他から独立してますから唯一な感じがしますね。

③国には the をつけない

神様：国はそれだけで唯一のものじゃから、the がなくてもみんな共通の理解ができるのじゃ。しかし、「kingdom」や「republic」や「states」がつく国の場合には the がつくのじゃ。それから複数の場合は the が必要じゃ。

女：えっと、(1)基本的には the はつかない、(2)kingdom, republic, states には the がつく、(3)複数の場合は the が必要ね。

例：England, the United Kingdom**, the Netherlands**

④山脈の場合には the が必要。

神様：山脈とは複数の山が連なっとるから the が必要なのじゃ。しかし何か一つの山の固有名詞の場合には the は必要ない。

例：the Rocky Moun**tains, Mt. Fuji**

⑤星や惑星について

神様：「sun」と「moon」には the がつくが、惑星には the がつかない。これはわしの考えになるのじゃが、「sun」や「moon」は広い宇宙じゃから他にも存在するじゃろう。しかし太陽系の惑星たち（水星から海王星まで）は唯一のものになるのじゃから the は必要ない。

女：確かに「地球」も人によっては the をつけたり the をつけなかったりするって聞いたことがあります。

例：the sun, the moon, Mercury, Venus, Mars

終わりに

神様：今回は the に関して 5 つのケースを見てきたがどうじゃった？

女：前回やったことを思い出しました。the がつくものは**共通理解があるもの**だって。

神様：ふむ。

女：**the が必要ない固有名詞**は the が必要ないくらい**唯一**で**共通認識**があるってことなんですね。

神様：そうじゃ。基本的な意味をおさえると応用がきくのう。ところでピザはまだかのう？

女：あ、頼むの忘れてました！

神様：・・・・・

（7）楽しく英文法：冠詞がつかない名詞

冠詞(Article)のつかない名詞

神様：冠詞のつかないことを「Zero Article」と呼ぶのじゃ。
女：ほうほう。
神様：基本的には以下 8 つが「Zero Article」になる。

①数えられない名詞
Would you like coffee or tea?

②複数形
Let’s eat cookies!

③言語
Do you speak Spanish?

④役割のある建物
She is at school right now.
学校で勉強していることを指している。
＊「the」がつく時はその建物自体を指す。
They are playing hide and seek at the school.
学校という場所を指している

⑤日にちや月日
The meeting is on Monday.

⑥食事
He eats breakfast.

⑦スポーツ
I don’t like watching baseball. I like playing baseball.

⑧町、市、国など
He lives in Sydney, Australia.

女：なるほどー。結局は最初にやった「the」の原則が根底にある気がするね。
神様：そうじゃ。

まとめ

神様：今まで三回にわたって冠詞についてみてきがのじゃが、最後にまとめてみよう。
女：ほう。
神様：下に三回分を軽くまとめてみたぞ。
①「the」の原則：お互い知っているもの
②最初に出てくる単語には「a」でその後は「the」になる
③TV に「the」がつくときと、つかないとき
④WTO などの団体の省略形には「the」がつかない
⑤自然界の物には「the」がつく
⑥何かの組織には「the」をつける
⑦川と海には「the」をつけるが、湖にはつけない
⑧山脈には「the」をつけるが、個別の山にはつけない
⑧惑星について：唯一と考えられる惑星たちには「the」はつけない
⑨Zero Article 8 個
神様：少しかぶる重複するところもあるのじゃが、こんな感じかのう。
女：ほう。

（8）楽しく英文法：代名詞のポイント５つ

代名詞とは

神様：まずは、代名詞とは何のことか分かるか？

女：「I」「my」「me」「mine」とかでしょ？そりゃあ分かりますよ。

神様：そうじゃ。英語は特に同じ言葉を繰り返すのを嫌うから代名詞を使うのじゃ。

女：なるほど。

神様：翻訳とかでも英語では「he」となっておるところを日本語じゃと「太郎」という風に固有名詞にして訳したりすることもあるのじゃ。

女：確かに。日本語にも代名詞はありますけど、ちょっと不自然な日本語になることがありますもんね。

神様：そうじゃ。日本語じゃと、主語を省略したり、固有名詞を繰り返したりすることの方が自然な文になるのじゃ。

女：なるほど。

神様：脇道にそれてしまったが、次に代名詞のポイントを教えておこう。

ポイント５つ（これだけおさえておけばオッケー）

①一般の人を表す「You」と「One」

一般的な話をするときの主語に「you」とか「one」を用いる。

例：You need to be careful going out late at night.

一つの注意点として、

「you」はカジュアルな文。

「one」はフォーマルな文。

その中間として「People」を使ったりする。

②動物には「it」

基本的には「it」を使うが、
ペットなどには「he」「she」を使う人が多い。

③「I」の代わりに「me」を使う
これは例を使って説明しよう。
「It was me who broke the vase.」の文があるとしよう。
文法的には「It was I who broke the vase」となるのが
正しかったのだが、
最近では「me」を使う人が増えてきている。
時代とともに言語は変わっていくいい例だ。

④複数人いる場合の言い方
例えば、
「Mike, Ken and I are going.」という文があったとしよう。
「I」を一番最後に持ってくることで他のひとをたてることができる。
レディーファーストの言語版みたいなものか。

⑤複数人いるとき、「me」でなく「I」
「Mike, Ken and me are going.」という間違いをしないように。

（9）楽しく英文法：不特定代名詞ポイント４つ

神様：今日取り扱う代名詞は「不定代名詞」と言われるものじゃ。
女：ふてい代名詞？
神様：つまり、all や either や each や eveybody などじゃ。
女：なるほど。「不定」だから「不特定多数」みたいな意味ですね。
神様：不特定じゃから一般的なことを述べるときに使う「you」や「they」もここで取り上げることにするぞい。
女：ふむ。
神様：下にポイント４つにまとめておくぞ。

①複数形か単数形か
「each」「anybody」「everybody」などは単数形になる。

②数えられない名詞についたときは単数形
例：All the people in the class were excited.（複数形）
例：All the furniture was covered in dust.（単数形）

③一般的な人を表すのには「you」か「they」を使う

④「he」か「she」か分からないときは「they」を使う
例：I didn’t know who was knocking on the door, so I didn’t let them in.
フォーマルな文だと「they」の代わりに「he or she」と書く。

（１０）楽しく英文法：形容詞ポイント３つ

①「ed」と「ing」が間違いやすいポイントじゃ。
「I’m bored.」と「I’m boring.」で説明してみよう。
間違いやすいのが「I’m boring.」と言ってしまうことじゃ。
これだと、「私は退屈な人です」という意味になるから注意じゃ。

②名詞を形容詞として使用する場合
beef hamburgers, diamond ring みたいな感じになる。
ここで注意するポイントは、最初の名詞は単数になるのじゃ。
bee hives, ant colony, みたいな感じになるのじゃ。
ただし、複数形が基本であったり、人の場合は複数形になるのじゃ。
sports drink, sports car, women boxers, みたいな感じじゃ。
もうややこしいから上の例だけでも覚えておけばいいぞ。

③複数の形容詞が重なった時の形容詞の順番
とりあえず例を見てみようかのう。
beautiful ancient green Chinese porcelain vase
上の例のように形容詞には順番がある。
理論的に言うと、
①quality, ②外見, ③出身, ④材質, の順番となる。
直感的に言うと、
名詞の本質から遠いものから近いものの順番になるのじゃ。

（１１）楽しく英文法：比較級・最上級ポイント４つ

神様：比較級・最上級の基本については中学校で習っておるから飛ばすぞ。ここでは間違いやすいポイントを４つ紹介しておこう。

①more をつけても「er」になってもどっちでもいい場合
おおまかに説明すると長い単語には「more」
短い単語には「er」
以上のようになるのが基本じゃが、
たまにどちらでもいい単語と言うのが存在するのじゃ。
それらは覚えておくしかない。
よく出てくる単語を下に紹介しておこう。
cleverer/ more clever
commoner/ more common
quieter/ more quiet
simpler/ more simple
politer/ more polite

②重複
例えば、「He is the <u>most</u> nic<u>est</u> person in the class.」とか
「The building is <u>more</u> bigg<u>er</u> than that.」とかのことじゃ。
正しくは「He is the nicest person in the class.」と
「The building is bigger than that.」となる。

③good の使い方

「good」は「better」とか「best」になる。
例を紹介しておこう。
That is the most good Italian restaurant in the town.
ではなく、
That is the best Italian restaurant in the town.
となるのじゃ。

④best を使いがち
「best」はあくまでも最上級の形なのじゃ。
「excellent」とか「great」の代わりに使ってしまわないようにしよう。
例えば、
Did you have a best vacation?
ではなく
Did you have a great vacation?
となるのじゃ。

（１２）楽しく英文法：比較級・最上級さらにポイント３つ

神様：今まで比較級・最上級について学んできたところじゃから、最後に間違いやすいポイント３つをあげて比較級・最上級を終わりに使用かのう。

①「most」「more」の二重使用
例：Mr. Chuan is the most nicest person in the office.
正しくは「Mr. Chuan is the nicest person in the office.」

②「better」「best」について「more better」「most good」としてしまいがち。
例：He is the most good pitcher in the team.
正しくは「He is the best pitcher in the team.」

③「great」や「excellent」の代わりに「best」を使用してしまいがち。
例：I hope you have a best vacation.
正しくは「I hope you have a wonderful vacation.」
神様：こうして落ち着いて見ると簡単なミスに見えるんじゃが、実際にテストとか焦っている場面じゃと間違えてしまうことがあるから注意じゃ。
女：全部、気持ちは分かるよ。

（１３）楽しく英文法：所有形容詞

神様：所有形容詞とは「my」とか「your」のことじゃ。所有形容詞の間違いやすいポイント４つをまとめておくぞ。
女：ほう。

①「my」とか「your」の前に「the」をつけがち
例：Look at the his new car.
正しくは「Look at his new car.」

②「my」には「mine」。「your」には「yours」。「her」には「hers」。「his」には「his」。「our」には「ours」となるが、「its」にはない。
例：The water ball is its.
正しくは「The water ball is the cat’s.」

③「mine」を「mines」にしてしまいがち。
例：The book is mines.
正しくは「The book is mine.」

④体の部位には所有形容詞を使う
例：I need to wash the hands.
正しくは「I need to wash my hands.」
神様：口慣らしをして考えなくても使えるようになっておくのが理想なのじゃ。
女：でも、こういう知識ってテストとかの時に役に立ちますよね。
神様：確かにそうじゃの。テストの時とかは、冷静ではおられんから、いつもとは違う判断をしてしまうこととかもあるからのう。

（１４）楽しく英文法：所有形容詞ポイント３つ

神様：それじゃあ、所有形容詞についてやってしまいがちな間違い３つを今日は上げてみようか。

①誰を指しているか分からない場合
例：Ami told Laura that she found her book.
このままだと、「her」は Ami なのか Laura なのか分からない。
直し：Ami told Laura that she found Ami’s book.とかにする。

②「own」について。
「own」は所有形容詞を強調する時に使うことができる。
例：I have my own car.
例：I have a car of my own.
あくまでも「own」は強調のために使うのであって、
通常の所有形容詞に通常の状態で使うものではない。
例：Type your answers on your own keyboard.
この場合の keyboard は特に強調しなくても絶対に「your keyboard」と分かっている場合ならば、「own」は必要ない。

③所有形容詞を訪ねる疑問詞は「whose」
例：Whose book is this?　答えは所有格で。「It’s mine.」
これは確か中学校とかで習うが、ついつい間違えがちなので一応。

（１５）楽しく英文法：動詞の便利な用法

神様：名詞を動詞が同じパターンがけっこう便利なのじゃ。
女：ほうほう。
神様：例えば「バターをパンにぬる」を英語でどう言うかの？
女：「ぬる」をどうするかですが、「put」を使うとすると、「I put butter on the bread」ですかね？
神様：うむ。その通りじゃ。ま、なんてことない英文なのじゃが、動詞について少し悩まなかったか？
女：確かに。「ぬる」って「put」なのかな、もしかしたら「spread」とかも使えたのかも、とかいろいろ考えました。
神様：どれも正解じゃと思うよ。もう一つ正解なのが、バターと言う名詞を動詞として使うことができるということじゃ。
女：ほう。
神様：「I butter the bread.」と、こうなるのじゃ。
女：なるほどーー！
神様：他にもこのような用法はたくさんあるから下に例をあげてみたぞい。
例：They bottled the juice. 彼らはボトルにジュースを入れた。
例：Did you email me?
例：Please salt potatoes.　ポテトに塩を振ってください。
例：Water the plant, please. 植物に水をあげといて。
例：Skin some potatoes. ポテトの皮をはいで。
例：He sighed and elbowed me. 彼はため息をついて私をひじでつついた。
例：The hunters treed the bear. ハンターはクマを木の上に追い詰めた。
例：Just google it! グーグルで調べろよ。
例：You can microwave your food. レンジでちんできますよ。
例：Did you text me last night? 昨晩メッセージくれた？

（１６）楽しく英文法：命令形

神様：今日は命令形について少し勉強してみようかの。
女：命令形って簡単なイメージがありますよ。動詞の原形を前に持ってくるだけでしょ？
神様：そのとおりじゃ。「s」をつけたり、「過去形」にしたりとか考えなくてよいから簡単じゃ。
例：Be quiet!
例：Turn left at the next corner.
神様：否定形だと、「Don’t」を先頭につけるだけじゃ。
例：Don’t watch TV!
神様：命令形はとても強い形じゃからのう、「Let’s」を先頭につけて「提案」にすることもできるのじゃ。
例：Let’s be quiet.
例：Let’s not watch TV.
神様：もうひとつ、命令形を少しだけやわらげる方法があるのじゃ。
女：ほうほう。
神様：先頭に「You」をつけるのじゃ。
例：You sit here.
女：なるほど、なるほど。
神様：さっき言ったのじゃが、命令形とは強い文じゃ。「Let’s」をつけたりするほかにも「please」を付け加えたりもするのじゃ。
例：Please hang your coat here./ Hang your coat here, please.

女：なるほどー。

神様：最後に「Have」はとても便利な動詞じゃから、ネイティブスピーカーはよく使うのじゃ。以下に例を挙げておこう。

例：Have a seat.

例：Have a drink.

例：Have some more vegetable.

例：Have a nice trip!

例：Have a good day!

例：Have a happy holiday!

女：なるほど、なるほど。

（１７）楽しく英文法：動詞の過去形

神様：今回は動詞の過去形について少し話をしておこうかのう。
女：ふむふむ。
神様：まずは、動詞の過去形の作り方は簡単じゃよな。
女：「ed」をつけるだけですー。
神様：その通りじゃ。「visit」なら「visted」のようになるだけじゃ。
女：ふふふ。
神様：そして、「go」の過去形は「went」のように不規則なものもあるのじゃな。
女：もちろん知ってますよー。
神様：過去形の疑問形は知っておるよな？
女：「Did」でしょ？
神様：そのとおりじゃ。
女：ふふふ。
神様：ところで「used to」という熟語の意味を知っておるかの？
女：「～したものだ」でしょ？
神様：そのとおりじゃ。
女：ふふふふ。
神様：それじゃ、「He used to live around here.」を疑問形にするとどうなるか分かるかの？
女：ええと、「Did he used to live around here?」かな、あれ、でも「used」って過去形かな。。。
神様：答えは、「Did he use to live around here?」となるのじゃ。
女：く！なるほどー！

神様：ふふふふ。
女：っく！
神様：もうひとつ過去形つながりで、ひとつ話をしとおこう。
女：ふむふむ。
神様：過去形を使うことで「丁寧」な表現になるのじゃ。
女：なんで？
神様：まあ、まずは下の例を見てみるがよい。
例：Did you want me to give you a hand? お手伝い致しましょうか？
例：We were wondering if you are ready. あなたの準備ができているかどうか思っておりました。
女：ふむ。
神様：過去形にすることで、直接的ではなく、距離を置いて客観的に言っている感じがでるから、丁寧なイメージになるのじゃ。
女：なるほどー。分かったような。。。
神様：ま、最後の話は、いつか理解できるじゃろう。